



撮影：西山芳一（表紙、並びに当ページ）

## 六把野井水拱橋

三重県いなべ市

一六〇一年、初代桑名藩主となった本多忠勝は六把野井水の整備に着手する。北勢町麻生田から桑名市大仲新田までの全長約一二キロ。幅二尺から五尺の水路は等高線に沿って環流し、畑作が中心だった員弁川左岸の丘陵地帯を豊かな水田として生まれ変わらせた。竣工までにおよそ三五年、当時としては大規模な土木事業だった。時を経て一九一六年、北勢鉄道（現三岐鉄道北勢線）が延伸し、この六把野井水を跨ぐことになる。文字どおりその橋渡し役を果たしているのがこの六把野井水拱橋、通称ねじり橋だ。

六把野井水と北勢鉄道の軌道は直交していない。約四〇度の角度で交差するためコンクリートブロックをねじるように積み上げて強度を保持している。いわゆる「ねじりまんぼ」と呼ばれる構造でコンクリートブロック造は国内唯一の斜拱橋とされる。国内では三〇例ほどが現存するねじりまんぼはレンガや石材を使用することが定石だが、開通当時は第一次世界大戦を背景として鋼材が不足していたことからこの拱橋では無筋のコン

クリートブロックが採用されたという。最大スパン九・一尺、最急斜角四〇度のアーチ橋。決して勇壮な構造物ではないが、力学的な強靱さがひしひしと伝わってくる。不整形のブロックがねじれながら積み上げられた様を見つめると周囲の情景をも巻き込みながら空間自体が歪んでいるような錯覚にとらわれる。銘板にはこのねじり橋を架げた地元の大工、郡竹治郎をはじめ技術者、技手の名が刻まれていた。その技術の高さは、竣工から一〇〇年余りの長きにわたり鉄道橋として現役を貫いているという事実が証明している。



六把野井水拱橋から東へ200mほど離れたところでは明智川拱橋が三岐鉄道北勢線の軌条を支えている。この3連式アーチ橋もコンクリートブロック造。田園風景に黄色い車両が映える鉄道ファンの人気スポットだ。このめがね橋も2009年、ねじり橋と共に土木学会の選奨土木遺産に認定されている。